

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 青葉福祉会
施設名	八木山あおば保育園
報告者（役職）	高橋 美保（園長）
住所・連絡先	宮城県仙台市太白区八木山本町1丁目26-1
	☎ 022-302-5688
	E-mail miho-t@aofuku.ne.jp

○タイトル（保育計画）

地域とともにあり、将来を担う子ども達の健全な心と体の育ちを支える

○主な助成備品

園庭整備



1. 保育計画策定の目的

仙台市八木山保育所の民営化に伴い移転する用地は、閑静な住宅地内の南斜面で、天気の良い日は遠く美しい山々や青い海に浮かぶ白い船まで見える素晴らしい地域でした。近隣の方々から保育園の開園にあたり、騒音や景観、交通事情についての不安の声が多く寄せられ、防音壁で囲む案も出されました。保育園としては地域の中で地域と共にある保育園を目指して説明会を繰り返し、ようやく開園のはこびとなりました。

保育園の使命のひとつが、八木山の地の次世代育成にあることにご理解いただき、応援してくださった町内会長や近隣の方々には本当に感謝しています。草刈を手伝っていただき、お茶をしながら子ども達の声を聞き、走り回る小さな子の姿に目を細めていらっしゃいました。世代間の交流や地域の子育て支援とともに、地域の皆様にお役に立てる存在でありたいと思いました。保育園の園庭で子ども達と触れ合いながら、四季の移り変わりを感じ、栽培、収穫を楽しんでいただくことができれば、子ども達の健全育成に関わる保育事業に対してさらにご理解をいただけるのではないかと思います。子ども達が日々を過ごす環境のなかで、地域の方々に見守られ、たくさんの経験を重ねることが、子ども達の感性に響くものであってほしいと願い計画を策定いたしました。

2. 具体的な実施内容

斜面を利用し、枕木やタイヤを埋め込んだ階段や土管のトンネル、人工芝を張り詰めた滑り台などの遊びのスペースで、日向ぼっこをしながら寝転んだり、ダンボールやそりを使って滑らせて遊んでいます。美しい眺望と開放感のある園庭の斜面は、子どもも大人も心を躍らせるものがあります。

枕木でかさ上げをして四季が感じられる樹木の植栽をしました。植樹した時期は冬であったので、木々の冬芽が膨らんで、春の準備をしていることに子ども達は気づき始めます。暖かくなると同時に、木々も芽吹きそれぞれの木々によって葉の形や色の違いにも触れることができました。ジュンベリーの小さく白い花がたくさん咲き、その後は小さな赤い実がたくさんなりました。「赤い実がなってる。なんだろう？」と子どもたちが興味をもちます。「たくさんあつめたらジャムが作れるかも…」一人の子に伝えると、子ども達にあつという間に広まり、ビニール袋にジュンベリーの実を集め始めました。自然の恵みは子ども達の心をひきつけ、興味関心を広げる力があり、子ども達の感性を豊かにしてくれると感じました。

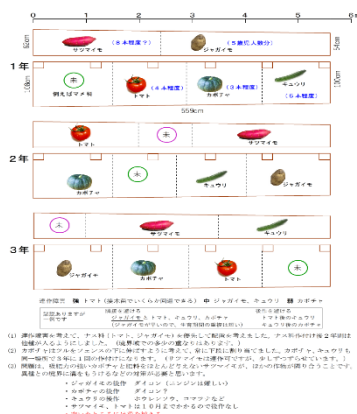
枕木による歩き道では、迷路のようにして歩き回るだけでも楽しいようです。バランスをとりながらの歩行はバランス感覚や体幹の育ちに繋がります。じゃんけんゲームなど子ども達が工夫をして遊びを見つけ出します。平地よりも遊びの意欲が深まります。



枕木で囲んだ畑に肥料を入れて耕運機で耕し、野菜のための土作りから始まりました。ご近所のKさんに御指導いただき、栽培について多くのことを学ぶことができました。収穫時期に合わせて栄養士に相談してクッキング保育も実施しました。じゃがいもは100個ほど掘れ、蒸し器で蒸かしたじゃがいもは特別の味で、子ども達の笑顔でいっぱいになりました。トマト、きゅうり、いんげん、ゴーヤ、さつまいもを栽培し、長い間収穫を楽しむことができました。毎朝、畑の観察が習慣になりました。



3. その成果と評価



上記の表は、連作障害を考慮しKさんにアドバイスをいただいた3ヵ年計画です。

大根は種から育てました。畑の水やりに一生懸命な子ども達は、朝一番に畑の観察に行きます。最初に発芽したときは大喜びで事務所に駆け込んできて、「だいこんの芽が出たよー」と報告してくれました。このような発見から、植物への興味が広がり、植物の生長や細かな変化や美しさ、不思議さに目を奪われたり心を動かされたりしている様子が、子ども達の表情から見て取れました。子どもと保育士との会話が、畑を介して広がっていき、子ども達の探究心や興味関心がどんどん広がっていきました。水やり、草取り、間引きなどその意味を伝えながら一緒に行いました。私が畑に出て行くと「今日は何をするの」と子ども達が集まってくるようになりました。

0歳1歳の子ども達も、畑までしっかりと目的をもって歩いてきます。野菜にそっと触れてみたり、揺らしてみたりと感触を味わっています。「まだとっちゃだめよ」と教えてくれる5歳児は憧れの存在のようです。収穫した野菜の絵を描きたいと自主的に取り組んだ5歳児の作品はのびのびとした素晴らしいものでした。

収穫の喜び

土の中から大きな大根が掘れたときには、大歓声が上がりました。子ども達にとって収穫は特に大きな喜びを感じるようです。その大根の長さを計ったり、重さを量ったり、数字に触れる機会にもなりました。毎日収穫する野菜を下記の表にマークシールを貼っていきました。ここでも数を数えたり大きさを比べたり数字に触れることができました。



地域支援活動 「やぎっこひろば」

さつまいもの収穫時期には、収穫祭として地域の方々をご招待しました。地域の子育て支援「やぎっこひろば」も実施しました。園庭にて炭火で焼いた焼き芋をほおぼるとき、自然に笑みがこぼれます。一緒に秋の味覚を堪能しながら和やかな時間となりました。2ヶ月に一度のペースで10組ほどの親子が参加します。行事へのお誘いや保育園の見学もかねて施設内で遊びます。育児に悩みを抱えている方や、引っ越してきたばかりの方も、育児についての情報交換ができたり、看護師や栄養士からアドバイスを受けたり、友達をつくるきっかけになったりとたいへん好評でした。来年度は毎月の計画にする予定です。



4. 今後の課題と展望

子ども達が畑に「べじたぶるのうえん」と名づけました。今年の卒園製作として、畑の看板を作ることになり木工作业が始まりました。現在は畑に堆肥を入れるなど準備中です。このような環境を準備できたことで、子ども達の経験の幅が大きく変わりました。

乳幼児期の学びは教え込むのではなく、環境を通して自らの相互作用によるものであり季節を感じながら、様々な環境や栽培や飼育を通して、心を揺さぶる経験を重ねながら、小さな命に対する愛着や探究心、共感性や自主性の発達基盤のひとつになると考えます。子どもの尊厳と習慣を育むと言う理念のもと、主体性、社会性、感性を大切に育んでいけるよう今後もよりよい環境設定に努めるとともに、地域との関係性を大切にしたい取り組みも計画していきたいと思っています。

今回助成していただいた園庭改造を有効的に活用し、継続的に樹木や草花を育て、四季の美しさを感じられる園庭を目指していきます。地域の皆様も含め、園に関わるすべての人々が幸せを感じられる場にしていきたいと考えています。

以上